

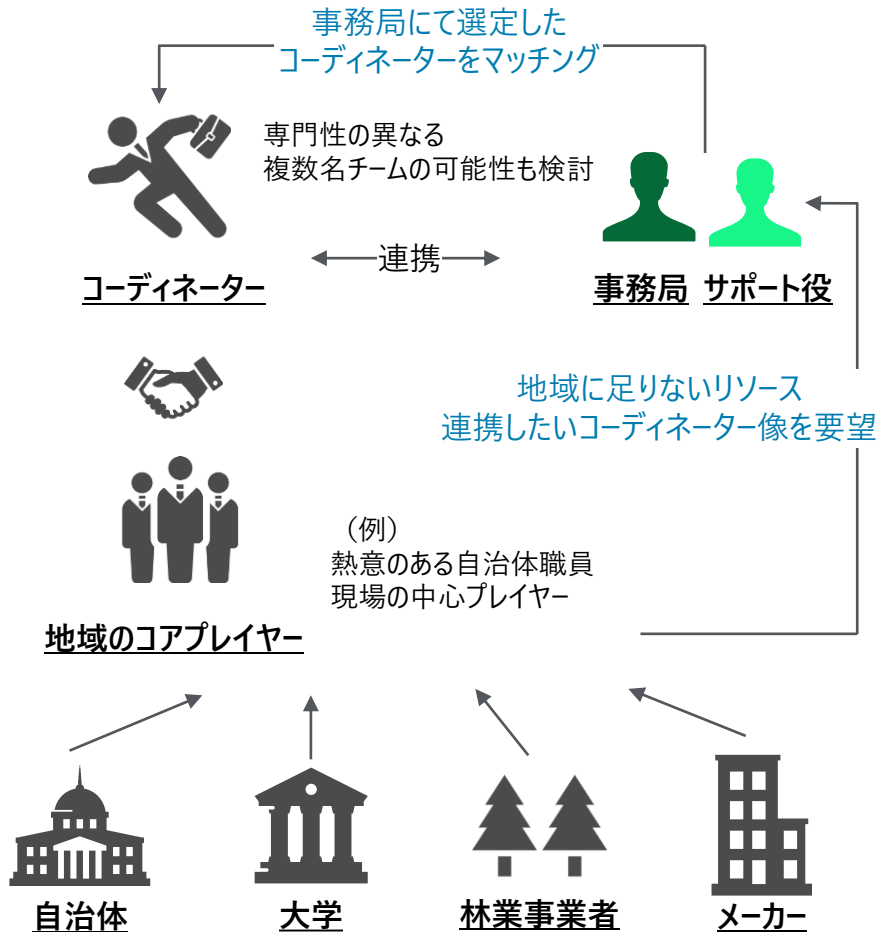
テーマ4：森ハブ支援体制構築（地域への伴走支援）

これまでの調査を通じて、コーディネーターは地域内にコアプレイヤーがいるかどうかによって立ち回りが変わり、求められる人材要件も変わってくるということがわかりました

R4年度委員会資料再掲

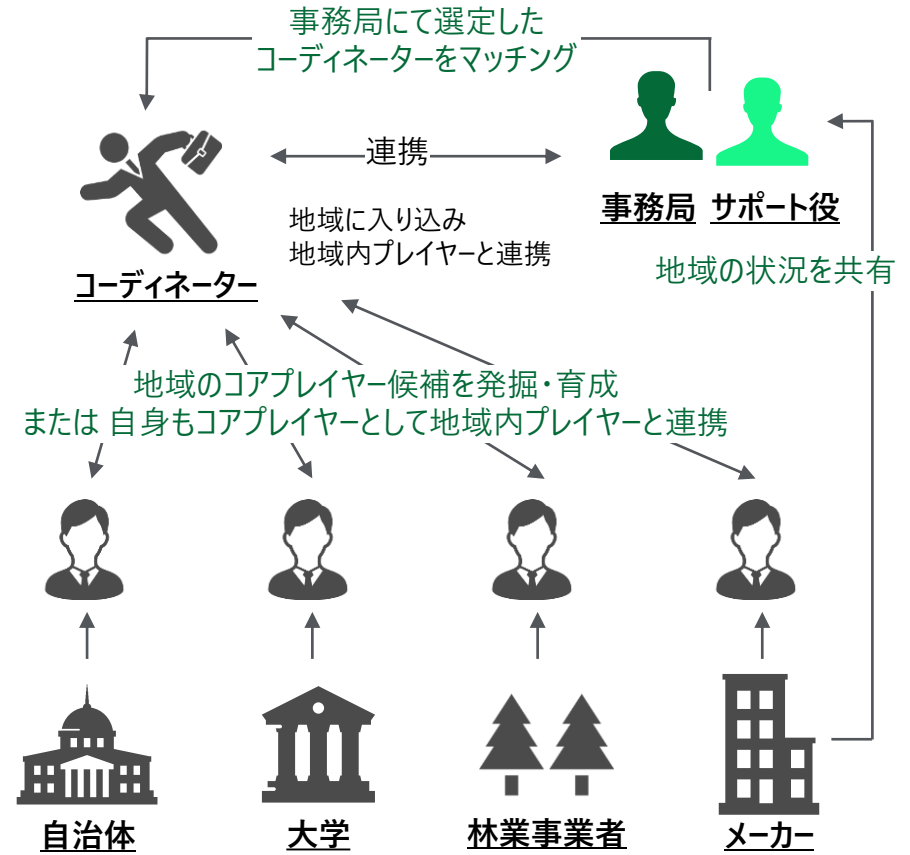
地域にコアプレイヤーがいる場合

- 地域にコアプレイヤーが存在し、地域に足りないリソースや連携したいコーディネーター像が明確化されている場合、事務局では地域要望に合った人材をマッチングさせ、地域での活動の加速化を支援します



地域にコアプレイヤーがない場合

- コアプレイヤーが地域に存在しない場合、コーディネーターは地域に入り込んで状況を把握・観察し、自治体職員や、地域事業者、地域おこし協力隊等のコアプレイヤーとなり得る人材を探して育成する、または自身が当該地域のコアプレイヤーとなる等、積極的に地域でのエコシステム形成や事業推進にコミットする必要があります



地域にコアプレイヤーがいる場合、コーディネーターの関与方法や成熟度、期間等に融通がきく一方、いない場合は地域内での中長期的な活動が必須となります

R4年度委員会資料再掲

地域プレイヤーの状況から見る取組の差異

	—— 地域にコアプレイヤーがいる場合 ——	—— 地域にコアプレイヤーがいない場合 ——
コーディネーター関与方法 (どのような関わり方が望ましいか)	コアプレイヤーのサポートがメインであるため、地域への定期的な通い、必要時のアドバイスのみ、都市部にて営業等のかたちで地域の活動を支援、等の関与も可	コーディネーターの関与は下記2パターンが考えられる ① 地域内プレイヤーを育成し、コアプレイヤーを創出する ② 自身が地域内のコアプレイヤーとしても活動する
コーディネーター活動拠点 (地域内拠点の要否)	問わない	地域内に拠点を構えることが望ましい
コーディネーター経験熟度 (地域での活動経験の要否)	不要 ※専門性を活かした支援が求められるため、地域での活動経験有無に限らず様々な人材が関与できると考えられる	要 ※本人が地域側プレイヤーとしても動いていく必要があるためどのようなステップで地域に入り込み活動を推進していくか熟知した人材である方が望ましい
関与期間 (技術普及に至るまでの期間)	短期間可 ※地域側コアプレイヤーがメインで活動する場合アドバイスのみの関与等も考えられる	長期間 ※地域のファーストステップから支援する必要があるため技術導入に至るまでには中長期のコミットメントが必要
人材確保の難易度	中 ※事務局は地域の求める専門性、並びに検討している人材要件を満たすコーディネーターを選定、マッチングさせる必要がある	高 ※地域に拠点を移せる人材であることが望ましいため、候補者の選定が難しい

森ハブ事務局の[]地域支援としては、場の形成と実証プロジェクト創出の2観点の支援に注力し、次年度以降の地域の自走化を目指します

一部非公開（地域名称）

森ハブ事務局による地域支援の在り方

	フェーズ① 場の形成	フェーズ② 実証プロジェクトの展開	フェーズ③ ビジネス実装支援の展開
各フェーズで 目指すゴール	<ul style="list-style-type: none"> ■ これまでの取り組みの整理・情報発信 ■ 取組テーマの設定・方向性の検討 ■ イノベーションの土台作り 	<ul style="list-style-type: none"> ■ エコシステムの核となるプロジェクトの創出と情報発信 ■ 林業以外のプレイヤーの参画 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多様なプレイヤーの参画によるエコシステムの形成 ■ 同一テーマを基軸に、複数プロジェクトが展開される環境の構築

森ハブによる[]地域支援（テーマ4 森ハブ支援体制構築）

現状・課題	地域のデータ連携体制が構築できていないため、航空レーザ計測データや森林所有者情報等を林業事業体用が活できていない	実証プロジェクトはこれまでも複数実施しているが、業務改善効果の整理や、成果の情報発信を進めていく余地がある	地域としては、「地籍調査・境界明確化の進展」、「伐採後の再造林率向上」の2点の地域課題を克服しつつ、現状以上の伐採量増加、林業振興を実現したい考え
支援内容	森ハブ事務局・コーディネーターが自治体との協議を仲介し、地域のデータ連携体制構築を支援 (自治体内規や、データ提供における規約作成等の支援を想定)	これまでの各種実証プロジェクトの成果整理、また新たな実証プロジェクトの計画策定や、ビジネス実装に向けた効果測定等のとりまとめ等を支援	コアプレイヤーで実施した実証プロジェクト、ビジネス実装について、他のプレイヤーへの情報共有や、技術実装支援を実施することにより、業務改善効果の大きな技術の地域実装を促進させる
目指す成果	【自治体と事業者とのデータ連携】 地域のデータ連携体制を構築する （データ連携体制構築に向けた関係者合意、データ連携までのプロセスを確定）	【業務のDX推進】 ◆ 各種DXによる業務効率化について 効果測定・定量化、ビジネス実装を検討 ex. ➢ 資源量データ活用による業務効率化 ➢ 造林用林業機械の計画策定効率化 ➢ 地籍調査効率化	【技術の地域実装の拡大】 フェーズ②で検討した各種技術の業務効率化を、コアプレイヤーである[]だけでなく、データ連携体制に含まれる 他の地域プレイヤーにも展開し 、複数のプレイヤーによる業務効率化による 地域課題解決 への道筋をつける

R5年度に到達